

YAMAHA

BP80

取扱説明書

はじめに

BP80は電子ドラムシステム用に開発されたウッドブロックタイプのトリガーパッドです。棒状のコンパクトなボディに2つの独立したパッドを並べた構造によって、パーカッション演奏のスタイルにマッチさせています。またドラムトリガーマジュールDTXのプログラムチェンジ（INC-DEC）用としても最適なパッドです。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

△ 警告 この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



固定用ネジはしっかり締め付けてください。転倒、落下などによりけがの原因となります。

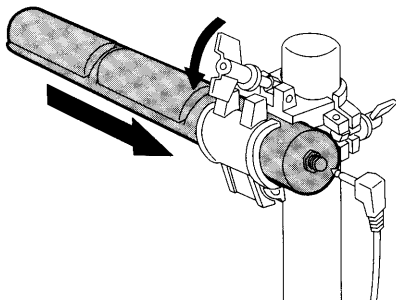


高さの調節および角度の調整を行う際、急にネジを緩めないでください。パッドが落下して手や指を挟むなど、けがの原因となります。

KICK PAD BP80 取扱説明書

■ セッティングのしかた

DTX専用ラックシステムRS80に、本体付属のクランプを使って図のようにセッティングしてください。

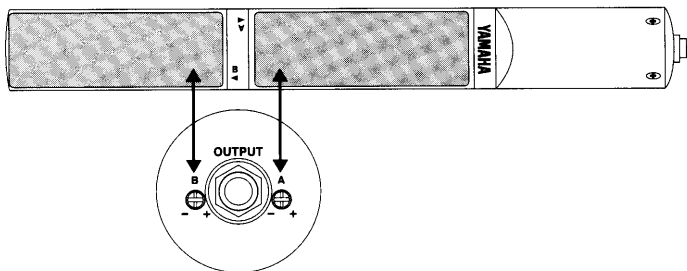


NOTE: ドラムトリガーマジュールDTXでお使いになる場合は、INPUT9/10または11/12に接続してください。DTXのINPUT11/12には、BP80に通した多彩なパーカッションサウンドがあらかじめ用意されています。

■ 出力調整

演奏を始める前に行ってください。

BP80の2つのパッドのトリガー出力の大きさを、独立に調整します。小型のマイナスドライバーなどを用いて調整します。レベル調節つまみを右(+)に回すと出力が上がります。左(-)に回すと下がります。たたく強さや必要とされるダイナミックレンジなどに応じて調整してください。



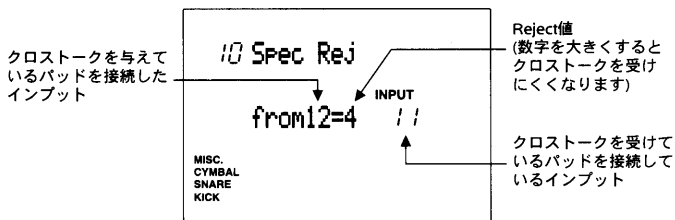
NOTE: BP80をDTXで使用する場合、ffでたたいたとき、トリガーエディットモードの4ページ目[PAD Gain]のインプットレベル表示が90~95%になるように調整します。出力が大きすぎると、ダイナミックレンジが狭くなったり、クロストークなどのトラブルが起きやすくなったりします。

NOTE: レベル調節つまみの操作は、注意深く行ってください。過大な力を加えると、破損の恐れがあります。

NOTE:クロストークについて

BP80は同一ボディに2つのパッドを配置しているため、出力を上げすぎると、強くたたいた際にクロストーク（たたいたパッドの振動がたたいていないパッドに伝わり、たたいていないパッドの音がたたいたパッドの音にまざって発音されてしまう現象）が発生することがあります。DTXでお使いの場合、これを防ぐには、レベル調節つまみを左に回してそれぞれのパッドの出力を下げるほかに、以下の方法で対処することができます。

DTXのTRIGGERエディットモードの [Spec Rej] 機能を使います。まず上記の方法で、2つのパッドの出力をそれぞれあらかじめ調整しておきます。つぎにDTXのTRIGGERエディットモードの [Spec Rej] のページに入り、画面右下のINPUTを、クロストークを受けている（たたいていないのに鳴ってしまっている）インプット番号にします。fromの後の数字をクロストークを与えているインプット番号にし、Reject値（=に続く数字）を大きくします。



このディスプレイでは、(=)に続く数字(4)を大きくすると、インプット12に接続したパッドをたたいたとき、インプット11にアサインした音が誤発音しにくくなります。

音を大きくしたいときは

BP80をDTXで使用する場合、アサインした音の音量を変えたい時は、この出力調整の後に、DTXのボイスエディットモードのVolume調整を行ってください（VOICEキーを押してボイスエディットモードに入り、PAGE▼キーを1回押せば2ページ目の[Volume]になります。+1/YES、-1/NOキー、またはジョグダイヤルを使って調節してください）。

消耗部品の交換について

- ・ 本機には使用年月とともに性能が劣化する消耗部品（ゴムパッド、接続端子など）が使用されています。消耗部品の劣化の進行度合は、使用環境や使用時間などによって異なります。
- ・ 消耗部品の交換は、お買上店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

■仕様

外形寸法	φ38×313mm
重量	0.4kg
コントロール	出力調整ボリューム×2
出力端子	標準フォーンジャック(ステレオ)
付属品	フォーンプラグ(ステレオ)付ケーブル(3m)、クランプ(RS80取付用)

アフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●持込み修理のお願い

まず本書をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理、サービス問い合わせ先)

北海道サービスセンター	〒064	札幌市中央区南10条西1丁目 1-50 ヤマハセンター内	TEL. 011-512-6108
仙台サービスセンター	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL. 022-236-0249
首都圏サービスセンター	〒211	川崎市中原区木月1184	TEL. 044-434-3100
東京サービスステーション (お持ち込み修理のみお取扱い)	〒108	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-6625
浜松サービスセンター	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL. 052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL. 06-877-5262
四国サービスステーション	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内	TEL. 0878-22-3045
広島サービスセンター	〒731-01	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL. 092-472-2134
[本社]カスタマーサービス部	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-1158

ヤマハ株式会社各支店(商品に関する問い合わせ先)

北海道支店第2営業課	〒064	札幌市中央区南10条西1丁目 1-50 (ヤマハセンター)	TEL. 011-512-6113
仙台支店第2営業課	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10	TEL. 022-222-6147
東京支店第2営業部	〒108	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-5471
関東支店第2営業課	〒108	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-1688
名古屋支店第2営業課	〒460	名古屋市中区錦1-18-28	TEL. 052-201-5199
大阪支店第2営業部	〒542	大阪市中央区南船場3-12-9 心齋橋ブラザール東館	TEL. 06-252-5231
広島支店第2営業課	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18	TEL. 082-244-3749
九州支店第2営業課	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL. 092-472-2130